

6/7
5/28

支援団体調査

ひとり親世帯の7割弱が、新型コロナウイルスの影響で収入が減っていることが、支援団体の調査で分かりました。8割強は逆に支出が増えており、団体は「収入が大幅に減らず国の支援対象にならない世帯も、経済的に苦しい状況」と訴えます。

ひとり親7割減収

コロナ影響 支出は増加

す。

シングルマザーらの交流コミュニティを運営する「ひとり親支援協会」(大阪市)が5月22と24日、インターネットを使って調査し、男女1292人が回答しました。

「収入が大幅に減らず国の支援対象にならない世帯も、経済的に苦しい状況」と訴えます。一方、「支出が増えた」が86・3%に上り、「幼稚園が休みで食費や光熱費などがかる」「コロナで仕事が流れ、給料も4割強落ちた」などの声が寄せられました。

集計結果によると、このうち67・1%が昨年比で収入が「減った」あるいは「減る見込み」と回答しました。一方、「支出が増えた」が86・3%に上り、「幼稚園が休みで食費や光熱費などがかる」「コロナで仕事が流れ、給料も4割強落ちた」などの声が寄せられました。

向きの給付金を盛り込むことを決めています。回答者の74・8%が

同手当を受給中ですが、全体の84・8%が「すべてのひとり親世帯に給付が必要」と指摘。同協会の今井智洋

代表は「対象から漏れる人にも届くような支援が必要だ」と指摘しています。